



# ガリガリ君 E-mail 通信

令和 5 年 1 月 (第 171 号)  
新年号

下水道既設管路耐震技術協会



今年も協会員・関係者皆様のご支援ご鞭撻を賜りますとともに  
ガリガリ君通信ご愛読の程よろしくお願い申し上げます



## 新年のご挨拶

下水道既設管路耐震技術協会

会長 増淵 智之

令和五年の年頭にあたり、協会員ならびに関係者皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げますとともに、今年一年の下水道既設管路耐震技術協会へのご支援を宜しく願いいたします。

今年は大正関東地震から 100 年目にあたりますが、東京や横浜で徐々に建設が進められていた下水道施設が初めての地震被害を受けてから 100 年目の年でもあります。残念ながら大正関東地震での管路施設の被害に関する教訓は、その後の管路の設計に生かされませんでした。その後、1995 年の兵庫県南部地震は下水道施設が完備された都市を襲ったはじめての大きな地震で、管路施設にも大きな被害が生じました。この震災を契機に管路施設の耐震事業が本格的にスタートし、今年には 28 年目となります。

この管路地震対策の抜け落ちた 72 年間の空白を埋めるために本協会が平成 14 年に設立され、昨年 4 月には設立 20 周年の記念式典を開催することが出来ました。この 20 年間に、協会員のご協力や関係機関のご尽力を賜り、「既設人孔耐震化工法」が 118 都市で 73,000 人孔、「フロートレス工法」が 102 都市で 27,000 人孔、「耐震一発くん」が 52 都市で 9,900 管口の施工実績を上げ、72 年間の空白解消に多少とも寄与できたものと考えております。

また今年、国の「防災・減災、国土強靱化のための 5 か年加速化対策」の 3 年目の折り返しの年となります。来年度予算概算要望では、地震対策として「下水道総合地震対策事業」の令和 5 年度以降への延伸と共に、新たな交付対象として「帰宅困難者受け入れ施設に係る管路の耐震化」が追加され、耐震事業の拡大が図られておりますが、主要な管さの耐震化率はまだ半分程度です。これまでに下水道施設が被害を受けるような地震が 10 年以内のサイクルで発生しておりますし、南海トラフなどのプレート境界型の巨大地震がいつ発生してもおかしくない状況にあります。これらの地震に備え地道に継続的に耐震事業を進めてゆくの、この事業に携わる私たちの使命です。今年を「今後 20 年を見据えた新たな出発の年」として、協会員の皆様と一致協力するとともに関係者の皆様のご支援を仰ぎながら、72 年間の空白を一刻も早く埋めるための歩みを絶やすことなく、今年も管路耐震事業を進めてまいりましょう。

## 下水道総合地震対策事業の拡充が新規事項として認められました

令和4年12月23日、概算総額35兆4,763億円とする令和5年度一般会計予算が決まりました。公共事業関係費は6兆600億円と昨年度とほぼ同額の内容となっており、このうち、国土強靱化関係予算は昨年度より2%増の3兆9,500億円が計上されています。国土交通省水管理・国土保全局関係では、一般会計予算1兆188億円が計上されていますが、このうち一般公共事業費9,710億円の9割が治水治水事業費となっています。

下水道の耐震関係予算は、国交省全体の防災・安全交付金8,313億円(昨年度比1.02)の中に含まれており、内訳の詳細はわかりませんが、概算要望で新規要望事項としていた下水道総合地震対策事業の延伸・拡充として

- ・下水道総合地震対策事業の5年間延伸
- ・帰宅困難者を受け入れる一時滞在施設に係る下水道管路の耐震化を交付対象に追加  
(一時滞在施設：帰宅困難者が地震後数日間滞在できる、公民館、ホテル、オフィスなどの施設)
- ・マンホールトイレに関する交付対象の拡充  
(対象施設数10箇所以内の上限が撤廃され、対象施設の施設面積が0.3ha以下も対象に拡大)

など、が新規事項として認められました。

この他の新規事項としては、

- 下水道浸水被害軽減総合事業の拡充
- 下水道広域的災害対応支援事業の創設
- 下水道温室効果ガス削減推進事業の創設
- 社会資本整備総合交付金等 重点配分事項の見直し

が認められ、概算要望事項がほぼ全て認められた結果となりました。



下水道総合地震対策事業の拡充イメージ

(国土交通省令和5年度概算要望書より)

## 事業マネジメント通信簿をご存じですか？

国土交通省下水道部では、下水道事業の促進と見える化を図る取組みとして、地方公共団体における取組状況を5段階で評価する「通信簿」を作って運用しています。現在「ストックマネジメント」「地震対策」「未普及対策」「浸水対策」の4事業についての通信簿が運用されています。

「地震対策」では、点数は以下のような4つの項目の計算の合計点として求められます。処理場の無い団体では②の項目が無い代わりに、①+③+④の合計に補正係数10/7をかけて求めます。

- |                    |   |     |
|--------------------|---|-----|
| ① 重要な幹線の耐震化率       | × | 30点 |
| ② 処理場の耐震化率         | × | 30点 |
| ③ 下水道BCPの見直し時期     | × | 30点 |
| ④ 下水道BCPに基づく訓練実施時期 | × | 10点 |

この点数を高い点数から20点刻みで5～1の5段階で評価したものが、都道府県別と事業者別（自治体や流域下水道別）に集計されています。

ちなみに、平成30年度の都道府県別の通信簿を見ますと、東北地方太平洋沖地震で大きな被害を受けた福島県は、平均点が73.9点で95%の事業者が3以上の評価を受けており、順位が1位となっています。また、一番低い県の点数は31.3点で、半数以上の事業者が評価1または2となっており、事業者間の評価が開いています。

各種通信簿は下記のURL（下水道全国データベース）で見ることができます。

<https://portal.g-ndb.jp/portal/report>

## 事故防止に新たな指標が設定されました

高年齢労働者の労災や墜落・転落事故の増加傾向が続いていることから、2023年度からの5年間を対象期間とする第14次労働災害防止計画では、事業者の安全対策への取組みを促すために、様々な対策を対象に、取り組んでいる事業者の割合を示す「アウトプット指標」と目指すべき目標である「アウトカム指標」を新たに設定することが盛り込まれています。これにより、企業特に安全対策への取組みの遅れている中小事業者の自発的な取組みを促したい考えです。

## 協会からのお知らせ

### ○ 運営委員会、品質確保委員会が開催されました

本年度第5回の運営委員会と品質確保委員会が、12月8日に東京都下水道サービス銭瓶町ビルディングで開催されました。

今回の審議内容は以下の通りです。

#### 1 運営委員会

- (1) 東京都との意見交換会について
- (2) 第22回定時総会に向けた日程および取組み内容について
- (3) 展示会への出展について

## 2 品質確保委員会

- (1) 開発者の取組み状況
- (2) 安全パトロールの実施結果について

### ○ 東京都下水道局との意見交換会が行われました

令和4年12月15日(木)、令和5年度の耐震化工事実施に向けた東京都下水道局との意見交換会が開催されました。

最近の耐震工事の進捗や実施状況、耐震工事を実施する上での課題や要望など17項目について、充実した意見交換が行われました(写真-1)。



写真-1 意見交換会の様子

### ○ 令和4年の協会3大ニュース

- ① 協会設立20周年の記念式典、記念講演会を盛大に開催
- ② 設立以来協会の発展に貢献いただいた4名の理事・監事が新しいメンバーに交代
- ③ 協会ホームページを大幅に更新し、工法紹介ビデオをYouTubeに登録

### ○ 今月の予定

- 13日 パトロール(長野県飯田市管路耐震化工事)
- 19日 「東京都市町村下水道情報交換会」耐震工法の説明
- 27日 「新潟県糸魚川市管路設備調査協会勉強会」耐震工法の説明

#### 編集後記

・サッカーワールドカップの余熱が冷めきらぬ中、コロナ感染拡大とともに新たな年を迎えました。お隣中国ではゼロコロナ政策が解除されたとたん急速に感染が拡大しており、今後その影響が世界的に拡大するのではないかと危惧されています。これから来年度事業に向けての事務作業が始まりますが、来年度の協会行事が予定通り進められることを祈るばかりです。

#### 今月の写真—門松と出雲大社の兎像

・今月の写真は、古事記の中に「因幡の白兔」として登場する出雲大社の白兔です。今年の干支である兔は古くから神の使いとして特に神社とは深い関係にあったようで、ウサギを祭っている神社として京都市の岡崎神社や鳥取市の白兔神社が有名ですが、十二支の中で一番人気のある動物のためか、全国的に狛犬ならぬ狛兔のある神社が数多くあるようです。初詣に訪ねて見られたら如何でしょうか。

